

Local Area News

近代こけしコンクール開催

群馬県こけし(協)

群馬県こけし協同組合(岡本有司理事長)は、2月1日に群馬県などとともに「第58回全群馬近代こけしコンクール」審査会を実施し、2日～6日の期間、群馬県庁1階「県民ホール」において作品の一般公開を行った。

同コンクールは、こけしの品質と意匠の改良、そして群馬県が誇る「近代こけし」産業の振興発展に寄与することを目的に、昭和34年より開催している。

「近代こけし」は、江戸時代後

期に東北地方で生まれた「伝統こけし」に比べ、形状にとらわれない自由な発想に基づく斬新なデザインが特徴。会場には、木の素材を生かした芸術性の高い一品作「創作こけし」、市場性のある「新型こけし及び木地玩具」、アマチュアが製作した「一般作品」の3部門計253作品が展示された。



海外でも高い評価を受ける近代こけし

このほか、会場ではこけしの即売会や絵付け体験などが行われ、訪れた来場者は木のぬくもりと個性豊かなこけしの表情を楽しんでいた。

また、3月16日には群馬県庁7階正庁の間において、入賞した37作品に対する表彰式が開催され、

最優秀賞(内閣総理大臣賞)を受賞した岡本有司氏ら受賞者に対して表彰状が手渡された。



最優秀賞作品「小さな春」

「穴掘リスト」の祭典で準優勝

伊勢崎管工設備(協)青年部

伊勢崎管工設備協同組合青年部(田島里史会長)は、2月4日、千葉県成田市・成田ゆめ牧場において開催された、「第18回全国穴掘り大会」において準優勝を果たした。

大会には、設備工事団体・企業に一般参加者を含め、全国から345チームが参加。1チーム6人以内で30分間穴を掘り、その深さを競った。

青年部が本大会に参加するのは今回が3度目となり、過去最高順

位は2016年の21位。過去2度の経験から、作業の見直しを行うことで一気に上位へ駆け上がった。



細く深く掘られた穴

掘った穴の深さはなんと3・26メートル。中学生男子が縦に2人入る深さの穴を掘ったことになる。1位との差はわずか4センチメートルで、次回は頂上を目指すと意気込んでいる。



LAW

群馬県へ車いすを寄贈

群馬県遊技業(協)

群馬県遊技業協同組合(趙栄日理事長)は、2月5日、群馬ヤクルト販売株式会社(塩谷輝行社長)とともに群馬県庁を訪れ、県へ車いす6台を寄贈し、川原武男健康福祉部長へ目録を手渡した。

同組合では、これまで児童養護施設に対する福祉基金の寄付や犯罪被害者支援団体に対する支援、地域のボランティア活動への参加など、長年にわたり様々な社会貢献活動に取り組んできた。

高齢者福祉施設への車いすの寄

贈は平成26年から行っており、寄贈した車いすの台数は累計で60台を超えている。また、群馬ヤクルト販売株式会社は組合の社会貢献の意思に共感し、キャンペーン活動への協力を行っている。



左から塩谷社長、趙理事長、川原部長

趙理事長は「車いすが高齢者福祉施設で活用されることは誠に嬉しい。今後も県民に寄り添い、地域に支持される組合を目指して、社会貢献活動に取り組んでいく」と今後の抱負を語った。

群馬県では、寄贈された車いすを、県内の高齢者福祉施設6カ所で活用していく予定となっている。

電気使用の合理化に高い評価

館林金属工業団地(協)

館林金属工業団地協同組合(多田征訓理事長)は、2月6日、関東地区電気使用合理化委員会委員長表彰「最優秀賞」を受賞した。

この賞は、関東地区電気使用合理化委員会が毎年2月の「省エネルギー1月間」に併せ、電気の効率的な使用・合理化に最も顕著な功績のあつた事業者を表彰するもの。

今回の受賞は、同組合の共同受電事業における電気の有効活用や、組合員一丸となった積極的な省エネルギー活動が評価された。

同組合では、今後も組合員との連携を密にし、省エネルギー活動の推進を行っていく方針である。



表彰状の授与を受ける多田理事長

ボランティア塗装を実施

群馬県塗装看板(協)

群馬県塗装看板協同組合(中嶋薫理事長)は、2月6日、前橋市中心市街地において、公衆トイレの塗り替え塗装のボランティア活動を行った。

同組合では地域貢献活動の一環として、県内各地の幼稚園や小学校、公園の公衆トイレ等における壁面塗装のボランティア活動に取り組んでいる。

当日は組合員23社が参加し、山本龍前橋市長も応援に駆け付ける中、市内3カ所のトイレの壁面塗装工事を実施した。



トイレの壁面塗装を行う組合員



大感謝祭を初開催

高崎卸商社街(協)

高崎卸商社街協同組合（吉濱達三理事長）は、2月24日、高崎市・ビエント高崎ビッグキューブにおいて、「第1回高崎問屋街大感謝祭」を開催した。

昨年まで「わけあり大処分市」として行っていた売出しイベントを、今年はより内容を充実させ、「大感謝祭」と銘打って開催した。組合員・賛助会員より26社、共催の太田流通センター卸協同組合からは2社、さらに、群馬Eコマース協会からも「特別販売会」と題

しブースでの出展があった。各社ともこだわりの商品を限定価格で提供し、約5,000人の来場者を大いに賑わせていた。また、今年は新企画として、「カレーハウスCOCO吉番屋」をはじめとする飲食店のキッチンカーの出店があり、食欲をそそる良い香りを漂わせていた。



10時の開場から多くの人が会場に押し寄せた

また、恒例となっているトイレットペーパーのタイムセールには、多くの人が列を成し、用意された200セットが10分足らずで完売する盛況ぶりだった。



タイムセールに長い列を成す来場者

災害時におけるガス発電システムの有効性について学ぶ

高崎市ガス事業(協)

高崎市ガス事業協同組合（小林均理事長）は、3月15日、高崎市・ニューサンピアにおいて、「災害時におけるガスコージェネレーションシステムの有効性について」をテーマに講習会を開催した。講師は、群馬大学医学部附属病院システム統合センター副センター長・鳥飼幸太氏。

同氏は、東日本大震災の影響により、計画停電が実施されることになった群馬大学医学部附属病院

において、病院機能維持のため電力確保に奔走した経験を持つ。鳥飼氏は、災害時における救急医療を行うためには予想以上の電力が必要であると指摘。その上で、低コストで発電機よりも多くの電力を安定的に供給することができ『ガスコージェネレーションシステム（ガスで動く発電機を用いて発電する仕組み）』について「発電する際に発生する排熱を給湯や暖房に活用でき、災害時だけでなく平常時にも運用が可能。さらに、プロパンガス式のエンジンであれば、移動も可能である」と解説した。



講演に熱心に耳を傾ける参加者